

特集 ■ 高齢者の骨・関節疼痛疾患

ご承知のように 2006 年度の診療報酬改定により、リハビリテーションの分野に疾患別の考えが導入され、整形外科関連の疾患は運動器としてくられることになりました。このような体系化がリハビリテーションの専門家にとって違和感のあることは事実ですが、その是非は別として整形外科関連の疾患がリハビリテーション医学・医療のなかで大きな割合を占めていることは、診療報酬の面からも明らかと言えます。ところで本誌では、毎年 1 回、整形外科関連の特集を取り上げることが恒例となっていますが、今回は前記のような背景のなかで、高齢者の骨・関節に関する疼痛疾患を部位別に取り上げてみました。各執筆者にはそれぞれの担当項目における、診断技術、鑑別診断、リハビリテーションを含む治療を中心に、最近のトピックスなどを交えて言及していただいています。

頸部（肩こり）（石田健司氏ら，217 頁）

肩こりは日本人において腰痛とならぶ有訴率の多い訴えであるが、その用語の定義は不明瞭で、明らかな原因の明確でない本態性肩こりから、器質的な原因で生じる症候性肩こりまで、その病態はさまざまである。本稿では、このような肩こりの理学的所見を中心とした診断、運動・物理療法を中心とした治療のポイントが述べられている。

腰部（山室健一氏ら，223 頁）

腰痛を生じる代表的疾患である、変形性脊椎症、腰部脊柱管狭窄症、骨粗鬆症、腰部椎間板ヘルニア、化膿性脊椎炎について、臨床症状が解説されるとともに、X 線写真、MRI、ミエログラフィーなどの画像所見についての言及がなされている。高齢者の変性に基づく腰痛の治療に際しては、まず保存療法が選択され、薬物療法、ブロック療法、理学療法などが実施される。

膝関節（高橋 晃氏ら，227 頁）

高齢者の疼痛性膝関節疾患としてもっとも多い変形性膝関節症について、臨床症状、画像所見を中心に診断が言及された後、保存的療法とともに、骨切り術、人工関節置換術という観血的治療について詳しい解説がなされている。さらに特発性骨頭壊死をはじめとする、変形性膝関節症と鑑別が必要な高齢者の膝疾患についても述べられている。

足関節（橋本健史氏ら，235 頁）

筆者らが所属する医療機関の足の外科外来を初診した高齢者 257 例に関する臨床経験が紹介されている。そのうち、骨折を除いたなかで頻度が高い疾患である外反母趾、変形性足関節症、強直性母趾、足底腱膜炎、陳旧性足関節外側靱帯損傷、後脛骨筋腱機能障害、関節リウマチなどについて、診断、治療のポイントが解説されている。